

# ニュージーランドへ行ってきました！〜平成26年度中学生海外派遣事業報告〜



芝生の校庭でサッカー



ホストファミリーと



教室も日本とは違います



クラスメイトと

## 17日(日)NZへ出発

いよいよ出発の日です。壮行式では、生徒代表の浜中音乃さんが決意表明を述べ、気持ちを引き締めました。高知龍馬空港から羽田空港を経由し、成田空港から11時間のフライト。明日の朝はNZです！

## 19日(火)ホームステイ開始

午後、ハミルトン市にあるフェアフィールド中学校に到着。現地の生徒やホストファミリーと対面し、この日からホームステイが始まります。みんな緊張気味の表情で心配です。

## 20日(水)学校訪問1日目

朝、生徒たちはホストファミリーと一緒に元気に登校してきました。もう打ち解けている様子です。学校訪問初日となるこの日は、マオリ式の歓迎の儀式に参加しました。ホンギと呼ばれるマオリのあいさつは、鼻と鼻をくっつけることで、お互いの呼吸を一つにするという意味があり、初対面の人を受け入れる親交の証だそうです。

## 18日(月)ロトルア観光

朝8時15分、定刻通りオークランド空港に到着しました。早速、空港内でNZドルに換金。キウイ(NZの国鳥)の絵柄が入った硬貨は使うのがもったいないくらいです。専用バスでロトルア市に移動し、レインボースプリングスで巨大なマスや20メートルを超える大きなシダ、キアというオウム科の鳥など、NZにしか生育しないめずらしい動植物と触れ合いました。また、マオリ村では、先住民マオリ族の暮らしを再現した集落や、岩の間から吹き上がる間欠泉を見学しました。

## 21日(木)学校訪問2日目

午前中、全校生徒による異国文化の学習発表会があり、生徒たちは黒潮町というより日本代表として参加。派遣団は黒潮町の紹介(英語でのスピーチ)とよさこいソーランを披露しました。700名を超える全校生徒の前でも萎縮することなく、これまでの練習の成果を十分に発揮できたと思います。また、引率者からは下村先生が得意の英語で運動会(Sports day)の紹介に挑戦。「KIBASEN」や「TAMARERE」などの映像を不思議そうに見ていましたが、時折「おー！」という歓声も上がり、とても興味を持ってくれた様子でした。

今年度の中学生海外派遣事業は、8月17日から28日にかけて、選考試験を突破した生徒12人をニュージーランド(以下「NZ」)に派遣しました。派遣団は、佐賀中学校から5人、大方中学校から7人の生徒と、教育委員会から1人、両中学校から1人ずつ、元ALITのアヴリルの合計16人です。行程は、6泊7日のホームステイと、その前後にロトルアとオークランドの市内観光を盛り込んだ12日間です。

本事業の主要となるホームステイは、長年交流のあるフェアフィールド中学校の生徒のお宅に1人ずつステイさせてもらい、学校に通いながら、英語や生活習慣など、異国文化に触れ合うことで交流を深めるといふプログラムです。フェアフィールド中学校は、現在27カ国からの生徒約770人と教職員68人が在籍しており、広々とした芝生の校庭と平屋の教室が立ち並ぶ、自然に恵まれた落ち着いた環境となっています。

また、異国文化の学習がカリキュラムに組み込まれており、全校集会でその学習成果を発表するという時間も設けられています。普段からさまざまな国の文化に触れ合っているせいも、私たちが加わっても必要以上に特別扱いされるわけでもなく、気軽に接してくれるので、生徒たちは比較的簡単に溶け込みやすかったのではないかと感じました。日本の学校にはない1番の特徴といえば、マオリ式の歓迎の儀式を受けることです。敷地内には先住民マオリ族の集会所をかたどった建物があり、伝統的な踊りや歌で建物内は神聖な空気につつま



大好きなアヴリルと



英語で黒潮町を紹介



ホストファミリーと



NZの自然と文化を体験

**22日(金)学校訪問3日目**

この日はアンセンブリーと呼ばれる集会に参加。毎週月曜日と金曜日に開催している全校集会で、連絡事項やスポーツ活動の表彰などを行っています。今回はブラズバンド部の演奏もあり、とても盛り上がりました。集会の終わりには、黒潮町派遣団のお別れセレモニーも行ってくれました。

**26日(火)NZの自然や歴史を学ぶ**

この日は1日中オークランド観光です。ハーバーブリッジを渡り、南半球で一番高い電波塔、スカイタワーへ。地上で20メートルのスカイデッキからはオークランド市内が一望でき、ガラス張りの床からはスリルある景色を楽しむことができます。

続いて訪れたオークランド博物館には、NZの自然や歴史、戦争などがテーマごとに展示されており、戦争を介した日本との関わりも展示室もあります。内容が濃く、じっくり見るには1日でも足りないくらいです。

**27日(水)久しぶりの日本へ**

早朝の飛行機に乗るため、5時30分にはホテルを出発。日本に到着するのは夕方です。

**23日(土)〜24日(日)ホストファミリーとの週末**

週末、生徒たちは引率者や他の生徒と離れ、ホストファミリーと自由行動。コミニケーションは自分の英語力だけが頼りです。引率者の心配をよそに、牧場に行ったりショッピングをしたりと、思い思いに楽しんで遊ぶ生徒もいました。

**25日(月)涙のお別れ**

朝、生徒たちはホストファミリーに見送られ、専用バスにてオークランドへ向け出発です。みんな別れを惜しみ号泣していました。

この日は移動と観光がメイン。まず、ワイタケレ森林公園を見学しました。壮大な原生林が広がっており、シルバーファーン(シダの一種)をはじめNZ特有の動植物が保護されています。

オークランド市内に入ると、これまでの原生林や大草原から一転しての大都会に、気分がガラリと変わります。おしゃれな海辺のレストランでフィッシュアンドチップスの昼食をいただきました。

**28日(木)楽しかった12日間**

成田空港内のホテルに宿泊した派遣団は、羽田空港へ移動し高知龍馬空港へ。町のバスに揺られ、黒潮町に無事到着しました。副代表の池田愛果さんによる感謝の言葉で、研修を締めくくりました。

れます。

3日間の学校訪問では、生徒は2人ずつクラスに振り分けられ、それぞれの教室で授業に臨みました。教科は体育であったり数学であったりさまざまですが、生徒によっては途中参加しにくい教科もあったようですが、みんな理解しようと積極的に取り組んでいるように見えました。

今年度はホームステイ期間中に土日を含むことから、引率者や他の生徒から離れてホストファミリーと過ごす時間が2日間ある日程となっていました。日本語に頼らない時間が例年より長くなり引率者としては大変心配しましたが、生徒にとっては大きなチャンスではなかったかと思っています。

ホームステイを終え再会した生徒たちからは、「まだ日本に帰りたくない」「また会いにきたい」という声とともに、家族と過ごした思い出話をたくさんしてくれ、頼もしくもあり、私にとってもやりがいを感じたことでした。

ホームステイの他にも、オークランド市内観光や大自然に触れることのできる森林公園を訪れたり、NZドルを使って買い物をしたりと、充実した時間を過ごせたのではないのでしょうか。

この研修を通して私自身が感じたことは、まずNZで関わってくれた方々の親切さや温かさです。ホストファミリーの皆さんは、生徒たちを優しく迎えてくれ、自分の子どもと同じように接してくれました。

また、生徒たちの頑張る姿からは多くの刺激を受けました。今回の経験を、今後の業務や自分自身の人生に生かしていきたいと思えます。

(NZ引率者 教育委員会生涯学習係長 渡辺健心)

※関連記事25ページ



### 「NZ研修をして思うこと」大方中学校3年 澤田 萌花

私が感じたことは、日本とNZでは文化も考え方も違うと思いました。でも、日本に似ているところもあって、あっという間に慣れることができました。

私が特に研修に行ってもよかったと思ったことは、ホームステイをした1週間です。ホームステイ先の家族はとても優しくかったです。英語もあまり通じないのにもいつも分かるまで待ってくれました。またホームステイをしに行ってみたいです。

NZの学校には3日間通いました。日本とは違うところばかりでした。モーニングティータイムというお菓子を食べる時間があったりして、日本とは違ったおもしろさがありました。もっといたいと思うほど楽しかったです。

この派遣事業を経験して、もっと英語が好きになりました。外国にも前より興味がわきました。またNZに行きたいです。

### 「NZで学んだこと」大方中学校3年 曾根 明香里

私は、NZでたくさんのことを学びました。週末は、ホストファミリーと一緒に出かけました。

日曜日は海に行きました。平日なら、学校で派遣団のみんなに会えるけど、1日中ずっと英語なので不安でした。まず、昼食を買って浜で食べ、ホストファミリーとサッカーをして遊びました。ホストファミリーは、私が英語をきちんと話せなくても、すぐに分かってくれました。遊びに行ったときも、すごく楽しめました。いつも気にかけてくれて、「アカリ、OK!」と聞いてくれました。ホストファミリーとお別れするときは寂しかったです。

今回、NZでホームステイなどたくさんの貴重な経験ができました。不安もあったけど、たくさんのことを学べたし、楽しかったです。

### 「ホームステイ。そしてNZ」大方中学校3年 野村 朋矢

NZでは、たくさんのことを学んだ。その中でも一番はやはり、ホームステイだった。

僕を受け入れてくれたベリー一家のアニー、ケイラン、トム、デクランは、とても優しくだった。ホームステイでの6日間は、人生の中の大きな宝物となった。感謝の気持ちでいっぱいだった。言葉の壁を越えて、ベリー一家の1人ひとりの特徴を知れた。母・アニーはとても料理上手でデザイナー。とても優しい。父・ケイランは誠実でよく笑う。数々の物のデザインを手掛けた優秀デザイナー。とても優しい。兄・トムはクールで気が利く。バスケットボールプレイヤーでとても優しい。弟・デクランは笑顔がかわいく日本が好き。陽気で明るくとても優しく、とてもいいキャラクターだ。とにかく、皆優しいベリー一家だった。

別れはとても辛かった。でも、この出来事を忘れず、大切にして、これから生きて行きたい。NZに行っても良かった。

### 「NZ研修へ行って…」大方中学校3年 平林 呼由

NZ研修でさまざまな体験をしましたが、特に心に残っているのはホームステイです。最初の日からとても温かく迎えてくれて、私が来たことを喜んでくれました。

まず初めに驚いたことは、家の中に普通に靴で入ることです。日本のように玄関で靴を脱ぐ習慣はありませんでした。

私がとても不安だったことは、ホストファミリーと会話ができるのかということです。でも、ホストファミリーは単語でゆっくり話してくれました。私も自分で調べたり、紙に書いたり、ジェスチャーで表現したりと積極的に話しかけました。もっと英語が話せるようになりたいと思いました。

私はNZへ行って視野が広がりました。文化の違いなどを実際に体験することができ、黒潮町の中学生で本当に良かったです。これからもいろんな国へ行って、さまざまなことにチャレンジしていきたいです。

### 「NZ研修を体験して」大方中学校3年 宮地 光

私は最初は、ホームステイ先でちゃんとしゃべれるかな、ちゃんと聞き取れるかなといろいろ不安でした。

でもホームステイ先の人や学校の生徒もみんなすごく優しく、ゆっくりしゃべってくれたりして、そんな不安はすぐに無くなりました。学校ではクラスの子たちがNZの鳥や動物などの名前とかを教えてくれました。ホームステイ先では、日曜日にはキウイハウスという所に連れて行ってくれて、NZの鳥やキウイバードも見ることができました。他にも牧場とかにも連れて行ってくれました。すごくたくさんのNZの鳥が見れて楽しかったです。

今回のNZ研修では、あまり自分からしゃべりかけたりすることができなかったのも、これからはもっともっと英語の勉強をして、ホームステイ先の子たちといつか会って話したいです。

### 「第二の故郷」 大方中学校3年 本山 百花

私はNZで約1週間のホームステイをしました。初めは夜も眠れないほど不安でした。しかし、そんな不安もすぐに無くなりました。NZの人たちは温かく私たちを迎え入れてくれて、何よりもすごく優しくかったです。ホームステイ先の家族は、初対面の私に家族のように接してくれたり、私が聞き取れるようにゆっくりと話しかけてくれました。休日には旅行にも連れて行ってくれて、毎日、おいしい手料理も作ってくれて本当に感謝でいっぱいでした。私はNZが大好きになりました。NZの人たちの温かさ、とても豊かな自然、誰にでもフレンドリーに接してくれるところ、伝えきれないほどいい所がありすぎてびっくりしています。本当にNZに行けて良かったです。私の一生の思い出になりました。いつか、もっと英語が話せるようになって家族に会いに行きたいです。

### 「NZで学んだこと」 佐賀中学校3年 小橋 充幹

NZでたくさんのお話を学びました。学校生活、生活習慣、言語などたくさんのお話が日本と違っていました。初めはとてもストレスが溜まるものでした。

でも、だんだん慣れてきて、学校生活など楽しすぎて帰りたくないほどでした。みんな優しいし、とてもフレンドリーです。初めはみんながフレンドリーすぎてビックリしてしまいました。日本ではこんなこと体験できないからです。日本ももっとチャレンジとかフレンドリーなことを教えていくべきだと思いました。いろんなことから逃げてばかりだと、なにも得られないし、成長できません。そうやってNZの人は学校を楽しんで成長していくんだなと思いました。

NZで日本のいいところを確認し、日本のだめなところも見つけることができました。

それをこれから社会に出ていく時、活かしていつか社会に出たとき、成功できるようにしていきたいです。

### 「NZで学んだこと」 佐賀中学校3年 浜中 音乃

中学生生活最後の夏休みに、NZに行かしてもらいました。私の目標は、面接でも言った、「NZの文化を知る」ということと「友達を作る」ということでした。

NZで一番楽しかったのは、やっぱりホームステイでした。すごく、会話の面で困らせたりしたと思うけど、ずっと優しく接してくれて、本当にいい人たちでした。たくさん気にかけてくれたり、話しかけてくれたので、そのおかげで、NZも楽しめたんだと思います。ホームステイ中も、まったくホームシックにならなかったことが、本当に良かったと思います。

ラム肉のおいしさにも感動しました。NZの文化でもある、ハカはすごく迫力があって楽しかったです。

何よりも、たくさん友達ができ、すごく世界が広がりました。

### 「NZ研修を終えて」 佐賀中学校3年 矢野 結愛

私のNZ研修は、初体験のことがとても多かったです。出発前は、自分がしゃべる英語が通じるか、ホームステイ先で失礼なことをしてしまわないだろうかなど、不安なことがあったりして、情緒不安定みたいになっていたけど、実際に行ってみると、大して英語が通じなかったりもしなかったし、ホームステイも気を使ってくれたりしてあまり困ったことはなかったので良かったです。

マオリ村やスカイタワーなど、すごく良い体験もできました。パスポートを見せるときや、荷物検査でも焦ったりすることなくスムーズにいけて良かったです。

今回の研修で学んだことを活かして、受験にも活用していきたいです。また、NZを訪れて、友達をたくさんつくりたいです。

### 「NZ研修を通して」 佐賀中学校3年 山崎 明

私はこの研修を通して、いろいろな体験をすることができました。海外の文化を自分の目で見て感じられたところは、とても貴重な経験になりました。実際に見て、海外のイメージというものは一変したし、日本の中の文化とは全然違うことを実感しました。

そして今回、私は研修をして、本物の英語というのを聞くこともできました。人々が日常会話で普通に使っている英語を聞いて、とても身になりました。

今回の研修を通して、私は文化の違いというものを実感したし、これからもっといろいろな国と日本との違いを学びたいと思いました。

そして、研修で学んだ実際の英語の発音や使い方などを、これからも学校で勉強する英語と合わせて、将来役立てていきたいです。

### 「違う文化で」 佐賀中学校3年 山下 沙希

NZでは、たくさんの人たちと交流することができました。とても良い経験だったと思います。

学校を訪問した時にはさまざまな違いに何度も戸惑いました。おやつ時間があったり、ドッチボールなどの遊びもまったく違いました。話していることばかり違うのに、すぐに話しかけてくれた子や、通るたびに「Hi」とあいさつをしてくれていつの間にか友達もできていました。すごく楽しく過ごすことができました。

オークランドに着いた時から不安だらけでしたが、大方の友達、学校の生徒、ホストファミリーの人たちと仲良くできて、たくさんのお話を知れました。NZは違うことが多かったけど、黒潮町と同じように自然豊かでした。違う文化、初めてのことで、いろいろな体験ができて、すごく良かったと思います。これからの生活に活かせるよう、コミュニケーションなど、大切にしたいです。

### 「学生海外派遣事業」 大方中学校3年 池田 愛果

私が海外派遣事業を通して感じたことは話している言葉は違っても、心は通じるということです。

他にもたくさんあったけど、私は特にこれを感じました。

私とホームステイ先や学校の人たちは、日本語と英語という言葉の壁があったけど、向こうの人は私に分かるようにゆっくり、ジェスチャーも入れて言ってくれたりして、とても分かりやすかったです。だから言葉は通じなくても嬉しい時、楽しい時、悲しい時、いつでも顔を見れば分かるし、最初あった時は不安だったけど帰る時にはその不安もまったく無く、良い思い出がたくさん残せてとても良かったです。国は違っていてもディズニーはいつまでも私の友達です。

これを通してたくさんのお話を学びました。

本当に感謝しています。